

中部シニアライフアドバイザー協会

# SLA通信

第98号

SLA 会長 畑島美奈子

総会で承認いただいた2021年度の活動計画には「SLA 通信」の年3回発行とありますが、昨年8月以来2回目の発行となってしまいました。辛抱強く会費を納めていただいている皆様には本当に申し訳なく思っております。

恒例の新年会も2年連続で中止せざるをえない中、せめて、2022年の総会は通常開催の4月に実施しようと計画をしておりますが、なりを潜めていたコロナが変異、進化しオミクロン株となり急激に感染力を強めており、予測のできない事態となってしまいました。

ウイズコロナと捉え、活動を以前の様に再開させるのは高齢者にとってはそれなりの覚悟と勇気が必要ではあります。

新しい年度を迎える前に春の『全国一斉特設電話相談「シニアの悩み 110 番」』を開設いたします。


9月に開設された特設電話相談は中日新聞をはじめ、NHK・民放のテレビ局に取材をいただいたこともあり、相談件数も多く、少ない相談員が昼食もゆっくりできないという状況でした。コロナ禍の中、身近に相談する人や機関が少なくなり、通話中のため何度もかけ直していただいた相談者の気持ちを考えると、私たちのこの活動の必要性を感じます。

52回全国一斉特設電話相談「シニアの悩み 110」のご案内と51回の報告とを記載いたします。

【第52回 全国一斉特設電話相談「シニアの悩み 110 番」のご案内】

日時：2022年3月26日(土)・27日(日)10:00～17:00

会場：名古屋市中区千代田3-16-11 第2杉浦ビル2F

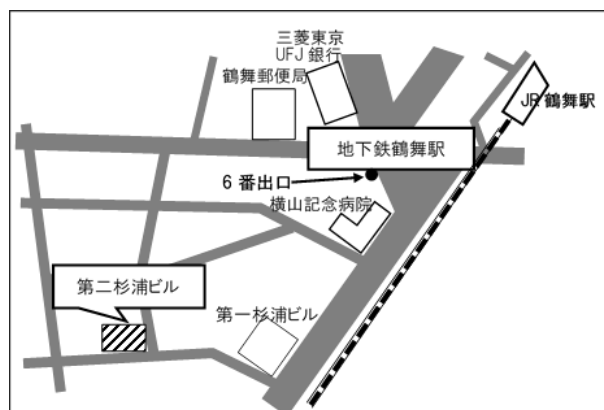
 **052-332-2600**

※相談員の皆様は26日・27日共に9時30分に集合願います。

※相談員を担当される方は宮地又は大歳まで連絡をお願いいたします。

- ・宮地 (090-8957-7231)
- ・大歳 (090-7852-7073)

※相談員以外の方の見学も歓迎です。



チラシを同封いたしました。電話相談につながるよう有効に活用して下さるようお願いいたします。

第 51 回 全国一斉特設電話相談 「シニアの悩み 110 番」  
中部シニアライフアドバイザー協会まとめ

相談件数（全国 5 協会合計 274 件 中部 47 件）

中部 SLA 協会 相談内容別件数

順位	1	2	2	4	5	6	7	7	7	7	7				
区分	経済	遺言 相続	人間 関係	健康 医療	家族 親族	終末 期	介護 福祉	年金 保険	成年 後見	住居	仕事	その 他	消費 生活	生き 方	合計
件数	10	8	8	6	5	4	1	1	1	1	1	1	0	0	47

年代別相談件数

区分	経済	遺言 相続	人間 関係	健康 医療	家族 親族	終末 期	介護 福祉	年金 保険	成年 後見	住居	仕事	その 他	合計
50 年代	-	2	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	5
60 年代	3	-	5	1	2	2	1	-	-	1	-	-	15
70 年代	3	5	2	5	2	-	-	1	1	-	-	-	19
80 年代	3	1	-	-	-	1	-	-	-	-	1	1	7
90 年代	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

暮らしの形態別相談件数

区分	経済	遺言 相続	人間 関係	健康 医療	家族 親族	終末 期	介護 福祉	年金 保険	成年 後見	住居	仕事	その 他	合計
夫婦世帯	2	1	1	-	2	1	1	-	-	-	-	-	8
一人世帯	5	6	7	5	1	3	-	1	-	-	-	-	28
家族同居	3	1	-	1	2	-	-	-	1	1	1	1	11

主な相談内容・特徴

1 位 【経済】

昨年までの遺言相続を抜いて経済の相談がトップでした。

病気を抱え蓄えや収入もなく困窮した生活から発生する相談と、経済的にゆとりのある中での相談もあり、二極に分かれた相談内容は、今の世の中を映し出しているように感じました。

2 位 【遺言・相続】・【人間関係】

今回、「遺言・相続」では、相続がきっかけで発生する家族親族間のトラブルよりも、自分の死後資産分与をどのようにしたら良いかという悩みが多く寄せられました。

「人間関係」の項では、住まいの周辺の人達との人間関係や肉親との関係がうまくできない。親しい友人もいない。幸せそうな夫婦を見ると腹立たしい。近隣の住人から嫌がらせを受けている。などこれまでの相談より、深刻さを増していると思われました。

## まとめ

相談事例の全体を通して、やはり長引くコロナ禍が大きく影響しているように思われます。

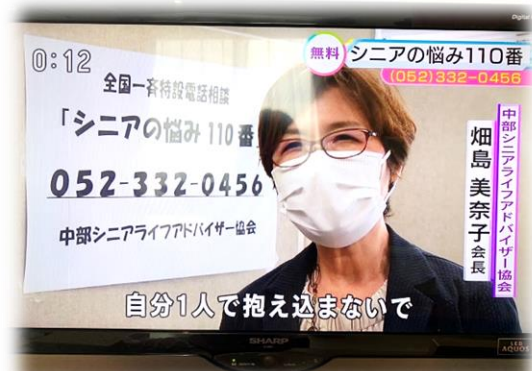
経済的に困窮し、食事にも事欠くといった内容は長い電話相談活動の中でも非常にまれなものです。今回、数件あった事例に、コロナ禍が経済に大きく響いていること、特に経済的弱者である高齢者にとって過酷な状況に置かれていることを行政は深刻に受け止めていただきたいと思います。

又、経済ばかりではなく、高齢者の心の問題にもコロナは大きな影を落としています。

行動範囲が狭められ閉塞感の中、孤独から孤立へと追いやられ気付かないうちに壊れた心で人を傷つけ益々人間関係を壊してしまう。負の連鎖となっていることが推測されます。

「健康・医療」では入院や手術に必要な身元保証人など切実な相談もあります。

高齢者にとって日々の生活が優しく豊かに送れるよう悩みや相談など親身になって聞いてくれる地域や行政が必要であり、更なる連携が必須と考えます。私たちシニアライフアドバイザー協会もそのような機関でありたいと考えています。



## 名古屋市生涯学習課・中部シニアライフアドバイザー協会協働企画による

### 名東生涯学習センター前期講座

2020年8月に予定されていた講座でしたがコロナのため中止され、2021年度再度依頼を受け、開講いたしました。しかし、開講はできたものの8月下旬には緊急事態宣言が出され、感染を心配して受講をとりやめた人もありました。密を避け、アクリル板を挟んでの講座でした。



8月19日「これまでを振り返り、これからを考えよう～生きがいを感じるために～」 畑島美奈子

26日「いつまでも健康な体で～コグニサイズで心も体も元気～」 宮地祥子

9月 2日「頭と体をはたらかせよう～スクエアステップで心も体も元気元気～」 大歳篁子

9月 9日「笑いで認知症予防！～心も体も活性化～」 加藤昂治

## 講演会 『SDGsと私たち 環境とジェンダー』に参加して

上野峯子

11月20日にウィルあいちで開催された萩原なつ子氏の講演を聞きに出かけた。

立教大学社会学部／大学院 21世紀社会デザイン研究科教授・認定特定非営利活動法人 日本 NPO センター代表理事というプロフィールで、分かりやすい話し方をされた。

適度な距離をあけて着席、約 50 名が聞き入った。

「地球を破壊から守る」ということは、現在の環境問題を知ること。

自分たちの生活を守りつつ、未来の生活を守るということ。そのためにたてられた「SDGs の 17 の目標」を達成するにはジェンダーの平等が大切であり欠かせないこと。一人一人の行動は小さくても集まれば大きな力になることなどがわかった。

日頃何も考えずにのほほんと生活しているが、倫理的な消費者（自分の損得だけでなく環境や社会、人などに配慮されたものを選ぶ）になりたいと思う。

「未来の子どもたちのために何ができるのか」と考える行動が未来の子どもたちを守ることに繋がっていくと実感できた。今更だけど「17 の目標・169 のターゲット」をじっくり読んでみようと思う。



## 三河部会便り

柴田芳則

11月18日（木）に名鉄東岡崎駅に3名（鈴木八重子さん・上野峯子さん・柴田）が集まり、豊田の山口敏子（部会長）さんの運転で豊川稲荷に向かい、途中で遠路浜松の深津さんが合流して5名になりました。

以前にも「三河部会」でお参りしましたが、豊川稲荷には中部 SLA 協会の発展と会員皆さんの健康とご多幸をお願いしました。

“いなりん”の食堂街で、高級風ウナギ店に入り、偶然隣り合わせになったウナギ問屋の人たちと「ウナギ談義」に話が盛り上がりました。

“黄葉”している大イチョウの見学を後回しにして「三河部会としての話し合い」を喫茶店で長時間してしまいました。

話し合いの要点は、下記の通りです。

- ❖「三河部会」としての、各地域でのシニア世代の“企画”開催してはどうか。  
～離れた地域もあるし、各地域の NPO 法人の動きが活発なので難しいのではないか～
- ❖本部企画も「独自事務所」がないので、日々の「活動企画」もままならない  
～関連発言として・年会費 3000 円では活動不全状態も致し方ないのではないか～



※柴田から

しばらく開催していない“岡崎シニア塾”を始めますので協力をお願いいたします。

なかなか難しい問題もあり、喫茶店に長居したので“黄葉”の大イチョウを観に行きました。

結果・大イチョウは青々としていて“まだまだ若々しくやることが沢山ある”との暗示かな？



このほかの地域部会は部会開催がありませんでした。



# 私の活動

興正寺 マルシェ

宮地祥子

夏には緑の葉で覆われた梢に吹く風が心地よく、境内に落ち葉が舞う頃は空がひととき広く澄む。桜は訪れる人たちを酔わせそして山茶花、椿は紅白の花を見せて新しい年を迎える準備をする。一年中四季折々人を惹き付けるここ八事山興正寺では毎月 21 日弘法大師の命日にマルシェが開催されている。私とそのマルシェに携わって早 7 年が過ぎようとしている。

ふとしたことがきっかけでマルシェに誘われ始めて見たその光景は私の心を虜にした。色とりどりのテントに並べられた地産地消無農薬、有機栽培の野菜やフルーツ、手作りスイーツ、クラフト、キッチンカー等々楽しいお店が立ち並び。

カートを引きながら直接生産者と会話を楽しみながらお買物をする姿がとても新鮮で心に刻まれた事。そして「未来の子どもたちに安心して暮らすことのできる地球環境を遺す」という主催者のコンセプトも私の思いと一になり又・安全な食材・伝統の技能・地域の特性という不変な価値を次世代に繋いでいく。同じ考えの出店者さんに支えられて続けられている。

8時からテント張り9時半の朝礼を済ませ入口の本部席テントに陣取り50店から70店近い店の出店料の集金業務と来場者の案内が私の主な任務となっている。三重や岐阜、静岡を早朝に出て眠そうな出店者さんもお客様の姿に目を輝かし元気よく迎える姿は頼もしく嬉しい。

後期高齢者となった今いつまでできるかと思いつつ頭や心のリハビリとなりお役に立っている喜びと楽しみがいっぱい詰まったマルシェは貴重な一日となっている。

コロナ禍で会員の皆様の日頃の活動もできにくくなっていることと存じます。そうした状況の下での「楽しい・困難・やむにやまれぬ」などのグループ活動や団体活動、個人的な活動をお伝えすることによって、会員の皆様の活動の励みや参考になればと存じます。是非、原稿をお寄せくださいますようお願いいたします。

## 幹事会からのお知らせとお願い

冒頭のご挨拶でも触れさせていただきましたが例年最終土曜日に実施しておりました「SLA 新年会」は残念ながら中止とさせていただきます。

2022年度に予定されております「全国会議」は九州の地で開催予定でしたがオンライン開催となりました。

3月開催の全国一斉特設電話相談「シニアの悩み 110」開設に向けての事前研修会を開催する予定ですが、日時・場所等の詳細が決まっておりません。決定次第、メール等を通じてお知らせいたします。

相談員に限らず参加いただきますようお願いいたします。

来年度に向けて SLA 役員選出についてはがきを同封いたしました。締め切りは2月28日です。

できるだけ自薦いただきますよう切にお願いいたします。



オミクロン株による感染者数は日を追うごとに増加し、予測のできない事態となっております。

病状についても様々な情報が入り混じり不安が募ります。

いづれにしても、高齢者である私たちにとっては油断できるものではありません。これ以上どんな予防をすればいいのかとも思われますが、とにかく、頑張っ夜が明けるのを待ちましょう。



## SLA と私

今泉治子

1994年、日本は65歳以上の人口が14%を超え、「高齢社会」になりました。

同じ年、名古屋にはじめて「シニアライフアドバイザー（SLA）養成講座」が開かれ、私も講座を受講して、SLAの一員に加わりました。

寝たきりで介護を必要としたり、経済的に苦しいといった典型的なイメージとして描かれる高齢者の問題だけでなく、むしろまだ元気な高齢者にとっての「生きざま」とか「人生設計」にかかわる問題が大きくクローズアップされ、養成講座では年金や相続税の計算を深く勉強しました。

「中部シニアライフアドバイザー協会」もみんなで立ち上げました。男性の会員も多く、幹事のなり手も多くいましたから、その時作った「会則」では幹事の任期は2年まででした。

2001年、私は協会の会長に就きました。

私は前の年に幹事をしていたので、協会の「会則」に従い、会長としての任期は1年だけしかありませんでした。やりたいことは色々ありましたが、あっという間にその年は過ぎました。

2006年、再び、会長になりました。木村利行さんと中島衣代さんが副会長を受けて下さり、幹事の皆さんもいい方ばかりでした。

私たちには1997年以来、開講していなかった「SLA 養成講座」を今一度開き、新しい会員を迎え入れたいという思いがありました。

講座を開くのは私たちですが、開くには「シニアルネサンス財団」の許可が要ります。私たちは財団へその旨を伝えましたが、協会には新しい会員を迎えるだけの力がないという財団の厳しい判断で、許可は下りませんでした。

前回の会長をした時の経験で、幹事の任期2年だけでこれを実現するのは不可能と思いました。自分で任期を伸ばすのは勇気がいりましたが、他の幹事の方も皆さん残ってもいいと言われたので、総会で議案に上げ、幹事の任期を「無期限」に変更しました。

私たちは協会の活動に力を入れ、財団へ協会の発展の模様を熱心に伝えました。財団の許可は次の年もその次の年も下りず、やっと許可がおりたのは2010年でした。

それからの1年は養成講座を開くためにみんなで力を合わせて準備をしました。募集広告には、新聞、テレビ、ラジオ、雑誌、協会のホームページなど、できる限りの手段を使いました。しかし、思うように人数が伸びず、財団に叱られたりしましたが、なんとか期限内に応募人数を超えることができました。2011年3月に無事開講し、やっと新しい会員の皆さんを迎えることができました。

あれから10年余りがたちました。今はコロナ禍で自粛生活が続き大変ですが、あの時に会員になられた皆さんも今では中心となり、協会の活動が続いていることを大変うれしく思います。

以前と比べて、社会のあり方は大きく変わりました。年齢や性別、国籍などに縛られず、多種多様な人々がそれぞれの持ち味を生かしながら活躍する時代に入っています。私たちシニアライフアドバイザーにもまだできること、しなければならないことが沢山あります。

みんなでがんばりましょう。

今泉さんの原稿は、昨年9月にいただきました。掲載が遅くなり申し訳ありませんでした。名簿順に原稿をお願いしています。次回は加藤愛佐子さんをお願いします。